COMMON GROUND!
日蘭交流のはじまり

はじめに

みなさん、「リーフデ号」というオランダの船を知っていますか？
1600年4月19日、九州の豊後に到着したこのリーフデ号は、日本とオランダのとても長い友情のきっかけとなりました。

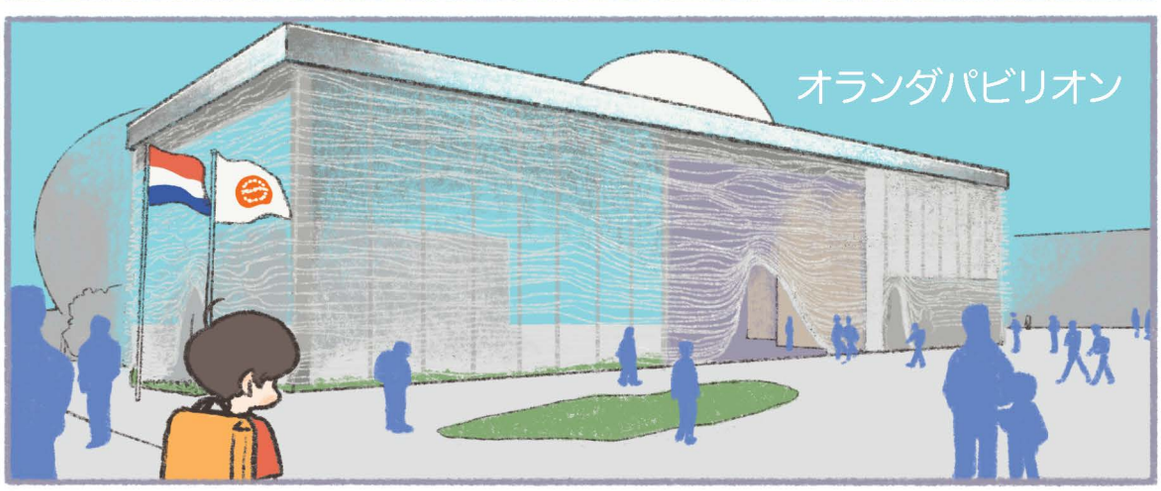
徳川家康は、リーフデ号が持ってきた外国の知識や技術が、日本にとってすごく大切だとすぐに気づきました。最初は九州の西の端にある平戸という島にオランダの商館ができて、たくさんの品物の貿易がおこなわれていました。
そのあと、長崎の「出島」という小さな人工島にオランダ人がうつり、そこで日本に新しい物や知識をいろいろおしえてくれるようになりました。

そして今、2025年には大阪・関西万博が「夢洲」という人工島で開かれます。オランダのパビリオンでは、自然と技術が仲良く一緒に働く未来を見ることができます。

そして425年前に始まった日本とオランダの友情は、今でもずっと続いています。
この大切な友情は、お互いを尊重し、一緒に学び、
明るい未来をつくる力を持っています。

さあ、日本とオランダの友情の歴史を
一緒に探検してみませんか？

2025
大阪・関西万博


オランダパビリオン

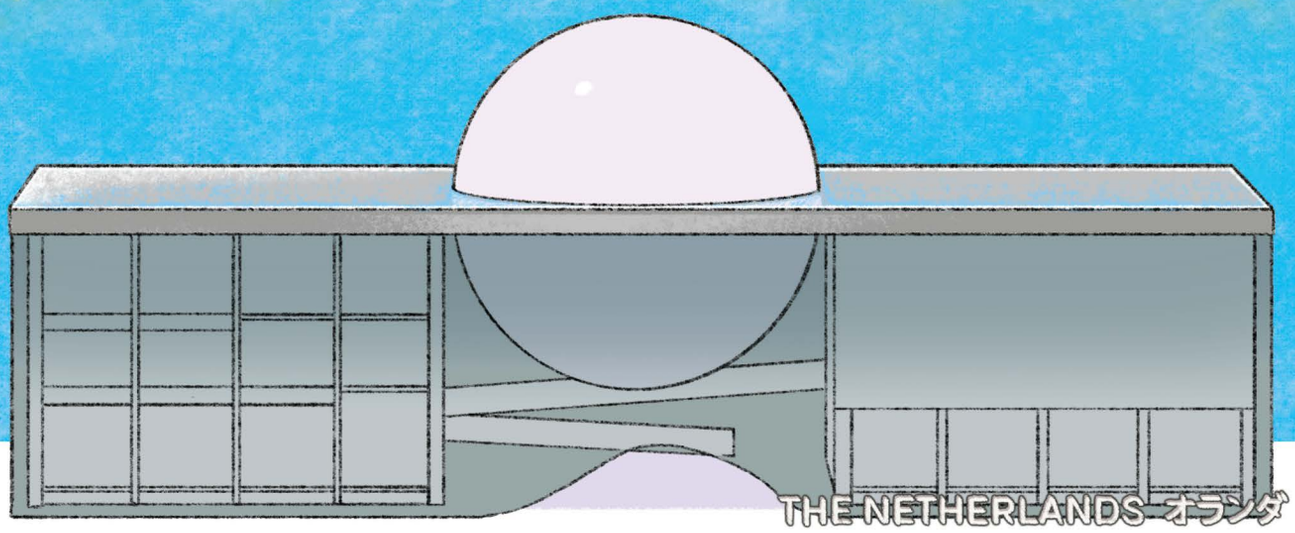
あそこ行く?
あれ
オランダ
やって!
すごい…
ふしぎな建物!
丸いとこ
入れるん

広ーい…
光ってる…
うわ！
ピョーン！

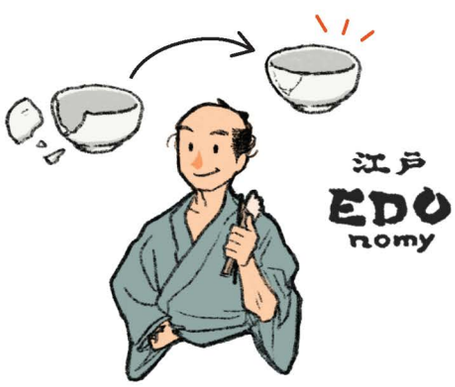
ポーン！
ポポポーン！
ヒャッホー！ ようやく 出られたゾ！
モフッ
き、君は… 誰？
何なの？

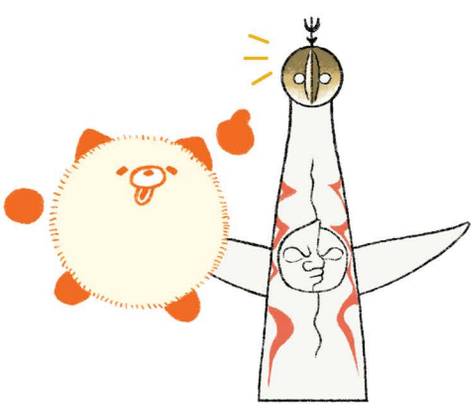
オレは
ZON！
オランダパビリオンの
妖精さんだゾ～
オーブに化けて
遊んでたんだけど
ちょっと飽きてきちゃって…
オレを手に取る
100人目のお客さんを
特別な旅に
連れてくって
決めてたんだゾ！
さあ！
早速　時間旅行へ
レッツゴー！！
ええっ！？

2025年大阪万博
オランダパビリオンへようこそ！



昔の江戸時代、日本人はものを捨てずに再利用していました。
これを「エドノミー」と呼びます。
オランダパビリオンもこの考え方を大切にしているんですよ！
パビリオン全体が、使い終わったあとに再利用できる材料で
できています。すごいでしょう？





中心にある大きな球は、1970年の万博で有名になった
「太陽の塔」からヒントを得たものなんです。
これは「新しい夜明け」を表しているんですよ！

オランダの人たちは「私たち人間は地球のお客さま」と考えています。
地球に住む「お客さん」として、どうやって資源を大切にするか、
一緒に考えてみませんか？

さあ、オランダパビリオンを探検してみよう！

1598年
オランダ・ロッテルダム
大きな船！
コレに乗るゾ！
すみません
この船はどこへ行くんですか？
アジアだよ！
5隻の船団で貿易をしながら世界を一周して
オランダに戻るんだ
世界一周だって！なんだかワクワクしてきた！
クルーズ旅行みたい！
たぶん思ってるのとはちがうゾ…

リーフデ号の航海について

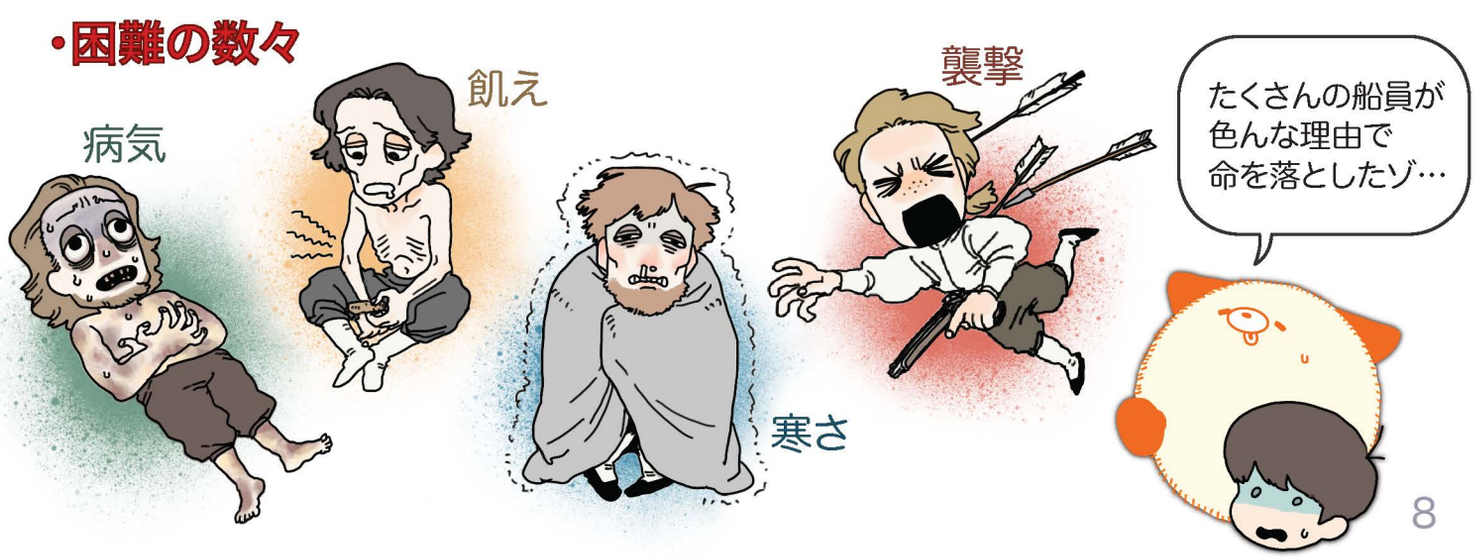
・リーフデ号が通った航路

リーフデ号が
オランダのロッテルダムを
出発してから
日本の豊後に到着するまで
およそ2年かかりました

・ハーゲン船団の船たち

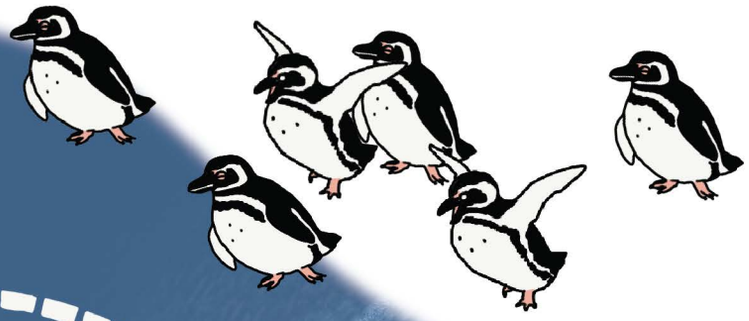
船員：約500名
軍人：たくさん
大砲：107門
砲弾：8560発
目的：貿易

・困難の数々



マゼラン海峡

船の通り道が複雑で
進みにくい！
浅いところや岩も多くて
船が動けなくなるかも…



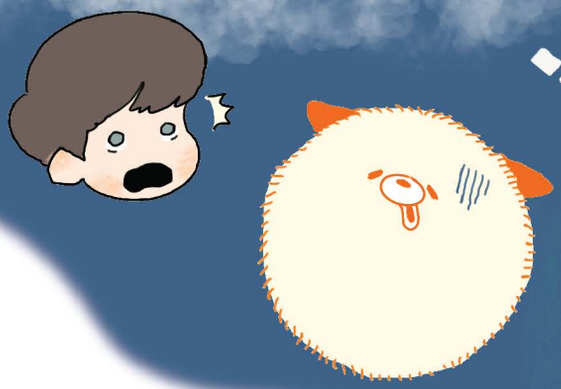
冬の航海

地球の南半分は4月〜8月が冬！
マゼラン海峡はめちゃくちゃ寒いし、
船が壊れるくらい風が強い！
なのに皆冬服を持ってきてない…

バラバラの船団

マゼラン海峡を脱出したら
嵐がやってきた！
霧も深くなって、だんだん船同士が
離れ離れに！

最後に残ったのはリーフデ号だけ…



リーフデ号、
1隻で太平洋横断へ…

へとへとだよ〜

ボロ…
島が
見えるゾ！
ひ～～
1600年
豊後（今の大分県）
日本に着いたー！
いったい
どこの船だ…
これで
ひと安心…？
いや、ここからが
正念場だ…

大坂城
戦国武将
徳川
家康
……
ピリピリ
だゾ…
なんだか
すごい
キンチョー感

1600年の政治状況について

・戦国時代の終わり

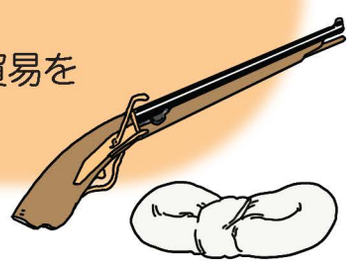
1600年は天下分け目の関ヶ原の合戦の直前。
徳川家康は天下人として日本を治めはじめていました。

家康は長い戦さで疲れた日本の経済を元気にするため、
たくさんの国々と貿易をして、新しい品物や技術を
取り入れようと考えていました。

・戦国のポルトガル人たち

ポルトガル人は当時、キリスト教を広めながら
日本と貿易をしていました。
鉄砲や絹を持ってきて、日本の銀と交換するのです。

この時代、日本ではほとんどの外国貿易を
ポルトガル人が独占していました。

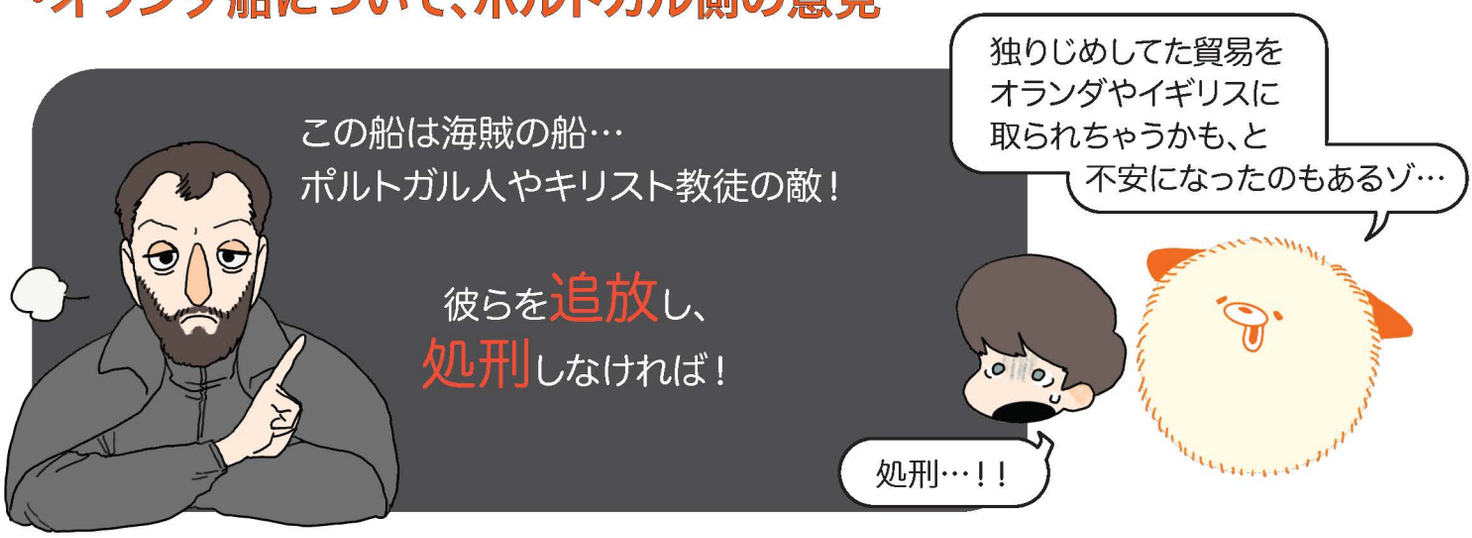


・ポルトガルとオランダ、イギリスの関係

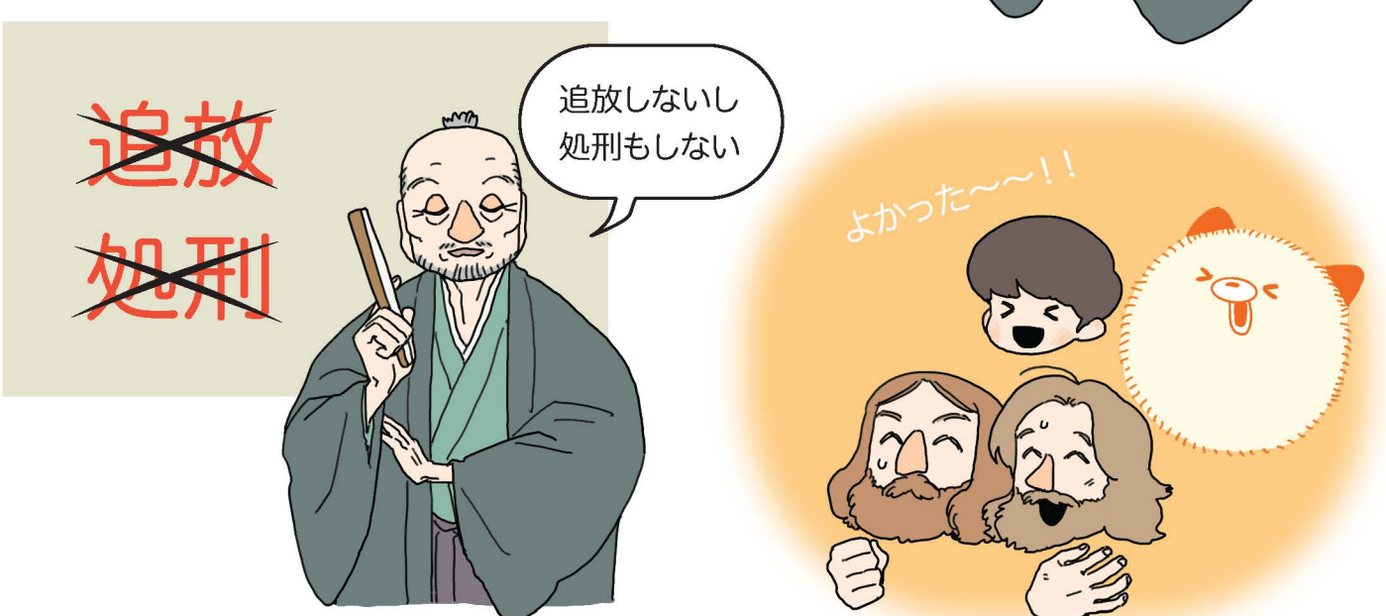
ヨーロッパでは、
カトリック（ポルトガル・スペイン）と
プロテスタント（オランダ・イギリス）
の国々が宗教の違いから争っていました。

海でもお互いの船を攻撃することもありました。
リーフデ号も、そうした状況の中で
日本に流れ着いたのです。

・オランダ船について、ポルトガル側の意見



・オランダ船について、徳川家康の考え



私も外国との交易に
大変興味がある
2人ともしばらく
日本にいると良い
ありがとうございます！！
2人とも
命拾いしたね…
アダムスとヤン・ヨーステンは
この後も日本に残って
家康が外国とやりとりするのを
手助けするゾ！
戦国時代の
外交顧問だね！

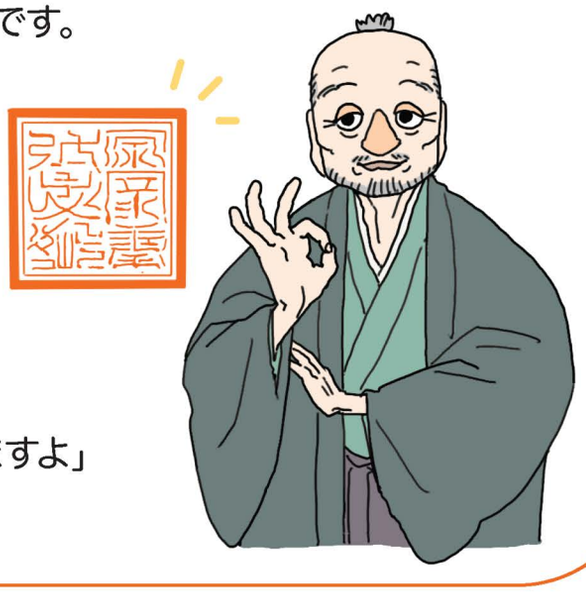
駿府城
半年後の1603年には
家康が治める
江戸幕府が
始まるゾ！
江戸時代！
聞いたことある！
1609年には
家康からオランダへ
朱印状が渡されて…
今の長崎県の平戸に
最初のオランダ商館が
建てられたゾ！
…「朱印状」って
一体なに？
解説は
次のページへGO！だゾ

・朱印状って知ってる？

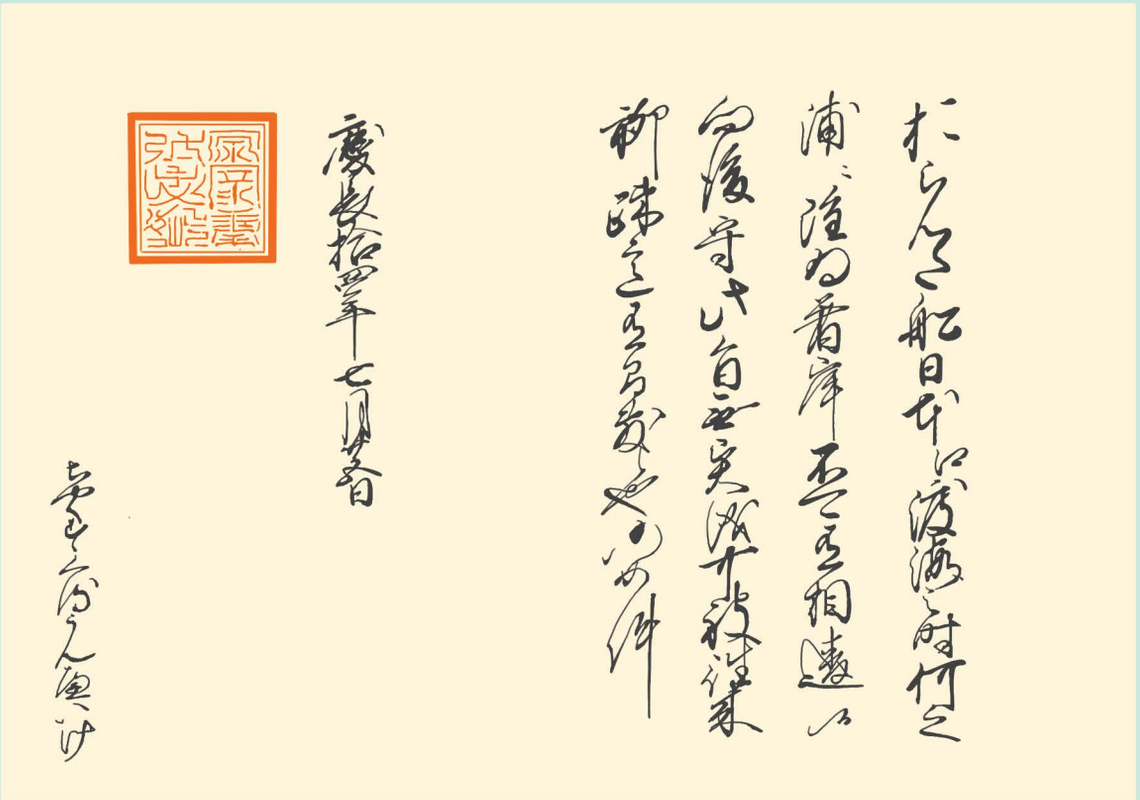
朱印状とは、大切な約束を書いた公式の手紙です。

赤い印（朱印）が押してあるので
「朱印状」と呼ばれています。
昔の日本で、将軍や武将が
とても大事な約束をするときに使いました。

外国人に与えた朱印状は
「日本に来てもいいですよ」「安全に貿易できますよ」
という許可証のようなものでした。



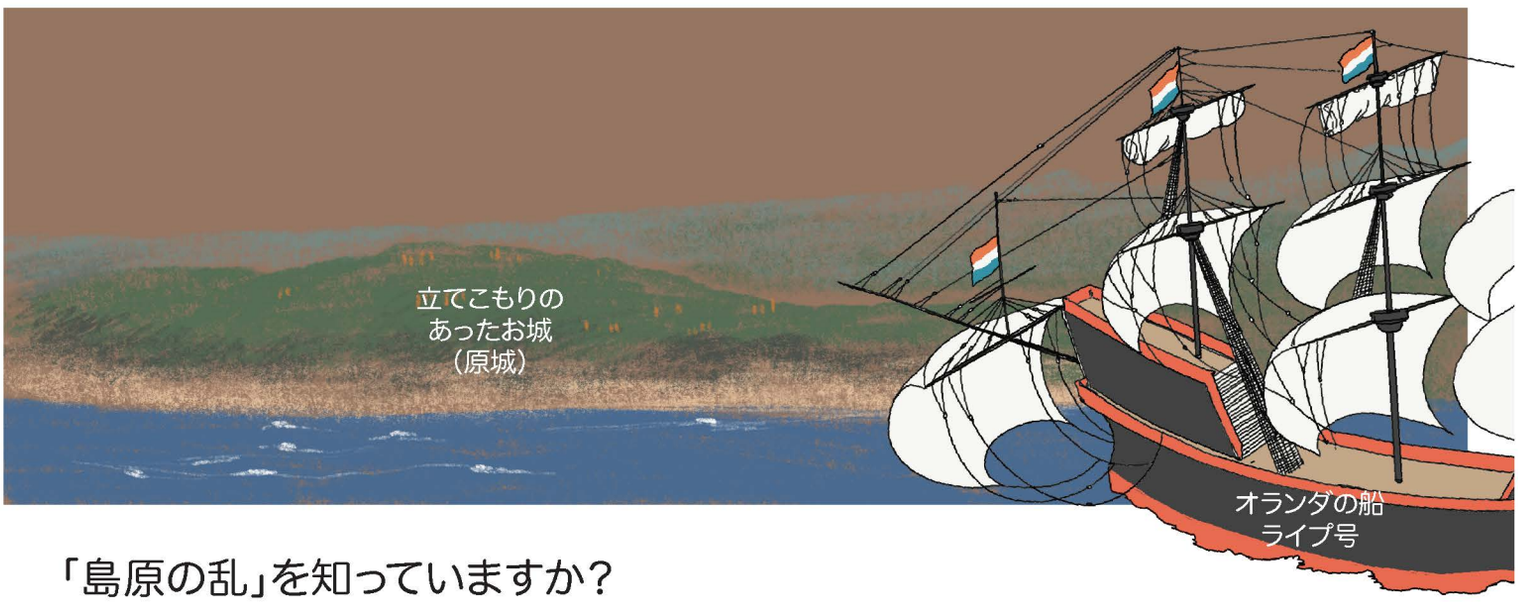
・1609年に家康が書いた朱印状を読んでみよう！



「オランダの船が日本に来たとき、
どこの港に着いても、誰もそれを邪魔してはいけない。
これからも、このきまりを守って、
オランダ人が自由に行き来できるようにしてあげなさい。
少しもおろそかにしてはならない。

慶長14年7月25日
（徳川家康の朱印）」

島原の乱～オランダ船の大砲～



「島原の乱」を知っていますか？
約380年前、日本の九州で起こった大きな争いです。
たくさんのお百姓さんやキリスト教を信じる人たちが、とても苦しい生活に耐えられなくなって、お城に立てこもりました！

将軍は、オランダ人に「助けてほしい」とお願いしました。
オランダ人は本当は日本の争いに関わりたくなかったのですが、
将軍とは仲良くし続けたかったので、手助けすることにしました。

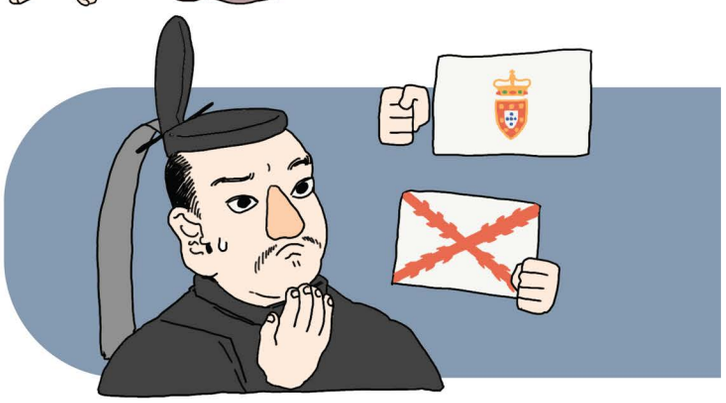
オランダ人は船を出して大砲でお城を撃ちました。
当時の大砲は爆発しない鉛の玉だったので、あまり役に立ちませんでしたが、
それでも、オランダ人は将軍との大切な友情を守るために協力したのです。

この出来事は、その先の日本とオランダの信頼関係につながっていきました。

キリシタン弾圧とオランダ人

キリスト教は戦国時代からスペインやポルトガルによって広められていて、その時から日本人のキリシタンも多くいました。

しかし将軍は、キリスト教が広まると、スペインやポルトガルというキリスト教国が日本を攻めてくるかもしれないと心配に思っていました。



「島原の乱」のあと、将軍の心配はさらに強まり、1639年にはポルトガル人が日本に来ることを禁止してしまいました。

こうした流れの中で、オランダだけは他のヨーロッパの国々と違い、日本と貿易を続けることができました。
オランダ人はキリスト教を日本人に広めようとしなかったからです。

とはいえ外国人への風当たりはきびしく、1641年には平戸のオランダ商館をとり壊すように命じられ、長崎の「出島」という小さな人工の島に移ることになりました。

果たしてオランダ人たちは、新天地でもやっていくことができるのでしょうか？

立派な倉庫だったのに
壊されちゃうなんて もったいない…
仕方のないことさ！
壊したらまた 作ればいい
大事なのは 商売を続けること…
いれものは 二の次だよ
出島でも稼ぐぞーっ！
カロンは 世渡り上手 だったんだゾ
打たれ 強いね！

ここが
長崎の人工島・出島だゾ！
不思議な形…
缶詰のパインみたい！
音楽が
聞こえる…
ヒマつぶしに
演奏してるん
だゾ！
ビリヤードの
部屋もあるゾ！
楽しそう！
船で持ってきた珍しい動物や
草花なんかもたくさんあるゾ～
すごい！

出島でのくらし

出島は扇形の小さな人工島。

毎年、夏にオランダ船が
やってきて、約3か月間は島に
とどまり貿易をおこなっていました。

前の説明にも書いたように、
この時の幕府は外国人に対して
不安を抱えていたので、オランダ
人は島から出ることを許されず、
閉じ込められたような状態で暮
らしていました。

そんな生活の中でも、オランダ
人たちは薬草を育てたり、珍し
い動物を飼ったり、ビリヤードや
音楽を楽しんだりして過ごしま
した。

出島でしか得られない西洋の知識を求め、
日本の通訳者や医者、学者たちが出島の
オランダ商館を訪れて最先端の学問を学
びました。

出島は小さな島ですが、日本とオランダに
とってかけがえのない、とても大きな役割
を果たしていたのです！

江戸参府の旅

オランダの商館長は毎年、「江戸参府」という長い旅をして将軍に会いに行きました。

この時だけ、オランダ人は出島から出て日本を旅することが特別に許されました！

長崎から江戸（今の東京）へ行って帰ってくるまで、往復で約3か月もかかる大旅行でした。

商館長たちは最新の西洋の品物を将軍へのプレゼントとして持っていきました。

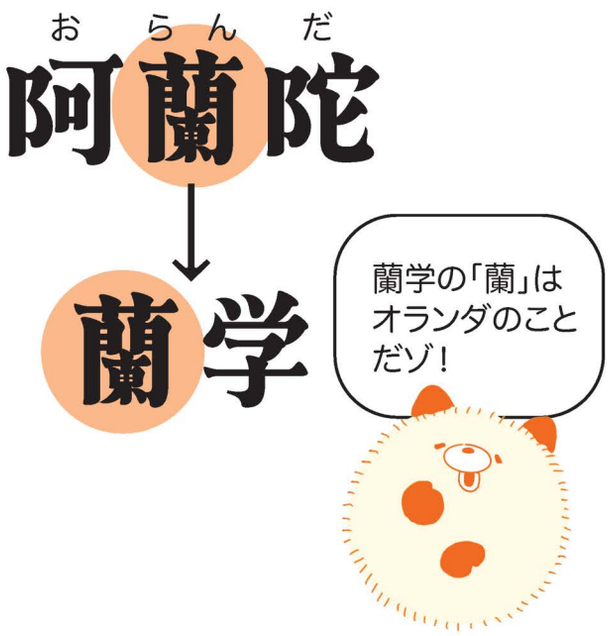
また、道中で見聞きした日本の文化についての情報を書き留めました。

この江戸参府は、日本とオランダの間で知識や情報を交換する貴重な機会だったのです！

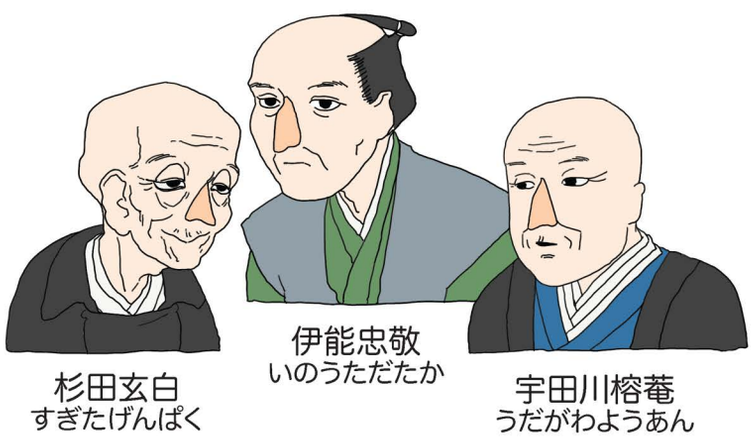
出島から広がった蘭学

江戸時代、長崎の出島はオランダと日本をつなぐ特別な場所でした。
船に乗ってやってくるのは品物だけでなく、日本には無かった西洋の知識も出島から広がっていきました。

この新しい西洋の知識は、当時「蘭学」と呼ばれました。



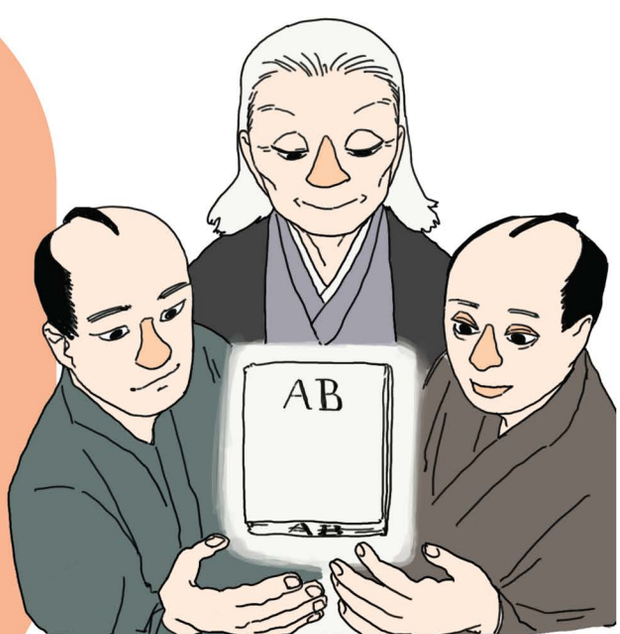
医学・科学・天文学の蘭学者たち



オランダの医学や科学・天文学などの最新知識は、蘭学として長崎から江戸や大阪へ、全国へと広がっていきました。

そして1838年、大坂に「適塾」という学校ができました。
この学校を開いた緒方洪庵（おがたこうあん）は、長崎の出島でオランダ人医師から学んだ知識を若者たちに教えました。
塾生たちは一冊しかないオランダ語辞典を使って夜遅くまで猛勉強…
福澤諭吉など、明治時代に活躍する人材がたくさん育ちました。

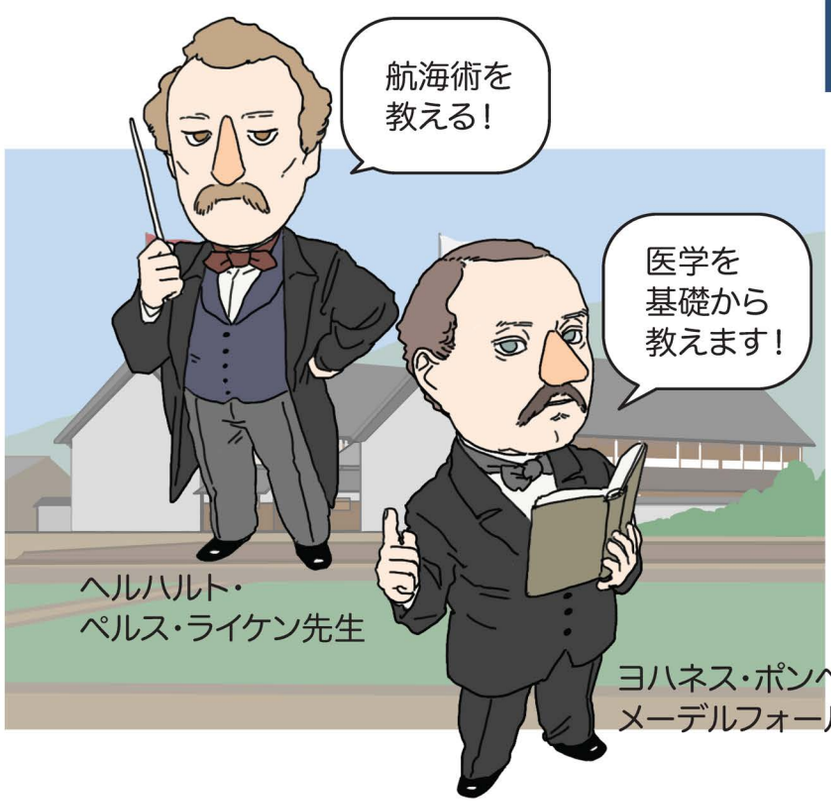
こうして出島から伝わった知識が日本を変えていったのです！



黒船来航！変わりゆく日本とオランダの絆

1853年に大事件が起きました！
アメリカの黒船が来て、日本はついに鎖国を終えることになったのです。

この決定的に大きな変化の中でも、日本とオランダの友情は続いていきました。



長崎に「海軍伝習所」という学校ができて、オランダの先生たちが日本人に船の作り方や航海の技術を教えてくれました。
1861年には、オランダの医学の知識をもとに、日本で初めての西洋式の病院もできました！

1863年、オランダの代表は出島から横浜に引っ越して、出島での交流の時代は終わりました。
でも日本とオランダの関係は終わりません！

オランダの専門家たちは、その後も日本の近代化を手伝ってくれました。
特に川や港を整備する土木技術を教えてくれて、日本の産業の発展にとても役立ったんですよ。

静かだね…
出島の
218年続いたお仕事が
ひと段落したんだゾ！
…218年！？
そんなに
長かった
の！
フフフ…
1634年から1636年まで
2年かけて作られた出島は
218年も日本の貿易を
支え続けたゾ
人間の力って
すごいね！
何百年も続く
島だって作れちゃう！
そうだナ～
人間が作った
島と言えば！

日本と世界をつなぐ
人工の島は
現代にもあるんだゾ！
現代に
帰るゾー！
ジャン！
日本と世界をつなぐ
現代の人工島、
大阪の「夢洲」だゾ！
万博をやってるとこ！
ぼくたちがいたところだ！

近くの大阪城に
タイムスリップして見た物が
たくさん展示されてるゾ！
大坂城
お城だ～！
リーフデ号！
本物とそっくりだ！
リーフデ号　模型
ヨーステンの
銅像もあるゾ！
似てる！
ヤン・ヨーステン
銅像
これは200年前に
適塾で使っていた
辞書だナ
きれいに
残ってるんだね…
ヅーフ・ハルマ（蘭和辞典）

ギクッ
ZON!
パビリオンに
いたんじゃ…
仕事はどう
したんだい？
小さいお客さんを
タイムスリップに
ご招待してたゾ…
サボりじゃ
ないゾ！
そうか
それはいいね！
君、タイムスリップは
楽しかったかい？
すごく
面白かった！
ぼくが見てきた過去が
今につながっていて
そこから先は…
ぼくたちが作って
いくんだね！
その通り！

さあ、きみは
どんな未来をつくる？

COMMON GROUND 日蘭交流のはじまり

2025年5月9日発行

絵・文　三浦麻乃
監修・文　フレデリック・クレインス
原案　マーク・カウパース
協力　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター（日文研）
発行　在大阪オランダ王国総領事館
大阪市中央区北浜1-1-14 北浜1丁目平和ビル8B
印刷・製本　株式会社グラフィック
人間文化研究機構の共創先導プロジェクト（共創促進事業）「開かれた人間文化研究を目指した社会共創コミュニケーションの構築」の補助金を受けた成果物である。
© 2025 国際日本文化研究センター、三浦麻乃、フレデリック・クレインス

本書をコピー、スキャニング等の方法により無許諾で複製することは、法令に規定された場合を除いて禁止されています。代行業者等の第三者によるデジタル化は一切認められていませんので、ご注意ください。

COMMON GROUND: The Beginning of Dutch-Japanese Relations
Published May 9, 2025

Illustration & Text: MIURA Asano
Supervision & Text: Frederik Cryns
Original Concept: Marc Kuipers
Cooperation: International Research Center for Japanese Studies (Nichibunken), Inter-University Research Institute Corporation, National Institutes for the Humanities (NIHU)
Publisher: Consulate General of the Kingdom of the Netherlands
Kitahama 1-Chome Heiwa Building 8B , 1-1-14 Kitahama, Chuo-ku, Osaka
Printing & Binding: Graphic Co., Ltd.

This is a creation that received funding as part of the Co-creation Outreach - NIHU Knowledge Co-creation Projects.
© 2025 International Research Center for Japanese Studies, MIURA Asano, Frederik Cryns

Unauthorized reproduction of this book by copying, scanning, or other methods is prohibited except as specified by law. Please note that digitization by third parties such as contractors is not permitted under any circumstances.